

骨折リエゾンサービス

大腿骨近位部骨折後に漏らさず骨粗鬆症治療を行う取り組み

大腿骨近位部骨折のほとんどは転倒などの軽微なケガで起こります。「高齢だから」「歳のせい」と思われがちですが、実際は骨粗鬆症が原因で起こってしまいます。大腿骨近位部骨折が起こると、ADL（日常生活動作レベル）が低下し、要支援、介護の原因となることから、骨卒中とも言われています。また、大腿骨近位部骨折を受傷すると、逆側の大腿骨近位部骨折や、他の部位の骨折（二次骨折）を生じやすくなってしまいます。そのため、初回骨折を生じた時点で骨粗鬆症治療を行う必要があります。このことは骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインにも明記されており、大腿骨近位部骨折や椎体（せぼね）骨折が生じてしまった場合は、薬物治療の開始の基準となっています。しかしこれまで、治療開始率が十分でないことが問題となっていました。

骨折リエゾンサービスとは

リエゾンとは「連絡」「つながり」「連携」を意味するフランス

語です。二次骨折予防は、患者さんの骨粗鬆症重症度の評価し、漏らさず治療（薬物治療、食事療法、運動療法）を開始し、そして退院後も継続することが重要です。そのためには、医師だけではなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、クラーク、医療ソーシャルワーカー、介護福祉士など、複数の職種間で「連携」をとる「リエゾンサービス」をチームとして行う事が有効です。その取り組みにより、骨粗鬆症治療開始率および継続率の向上と、再骨折の低減が期待されています。

当院では 2020 年 3 月に、大腿骨近位部骨折に対する骨折リエゾンサービスを開始しました。当院の取り組みとして、手術治療だけでなく骨粗鬆症治療の開始、継続の重要性についても理解いただくために、大腿骨近位部骨折の治療の際に、手術内容と骨粗鬆症治療の必要性について記載した治療同意書を用いて説明をしております。（文書 1 参照）。骨粗鬆症の精査や治療の流れのプロトコールを作成してスタッフ間で共有して治療を行い、その中で、日本骨粗鬆症学会認定の骨粗鬆症マネージャーを含む骨折リエゾンサービスのスタッフから、入院中の患者さんに向けて食事療法や、運動療法について、手帳（「こつこつ

手帳」文書 2 参照) を用いて説明しております。それにより、過去の治療開始率が約 45% (2014 年～2017 年、当院院調べ) であったのに対し、リエゾンサービス開始後は 90%以上となり、通院されている患者さんの 1 年後の薬物治療継続率は 100%となりました。また 2021 年 8 月には国際骨粗鬆症財団 (IOF : 国際的な骨粗鬆症の治療、予防、啓発活動に取り組む財団) が行うベストプラクティスフレームワーク「脆弱性骨折の二次骨折予防の取り組みに対する認定制度 **capture the fracture**」に活動状況を申請し、銅 (Bronze) レベルの認定を受けました。

(IOF による認定は、2022 年 4 月現在、国内では 43 施設、北海道では 4 施設)。



RECOGNIZED POST FRACTURE CARE COORDINATION PROGRAM/ FRACTURE LIAISON SERVICE

Presented by the **International Osteoporosis Foundation** to:

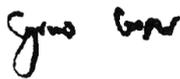
Kushiro City General Hospital

Kushiro, Japan



For achieving the **Bronze Standard** for the Capture the Fracture® programme.

August 2021



Cyrus Cooper
President



Philippe Halbout
CEO



(下記の URL から世界中の CAPTURE The FRACTURE 認定施設が
一覧できます。 [https://www.capturethefracture.org/map-of-
best-practice](https://www.capturethefracture.org/map-of-best-practice))

また、当院は日本脆弱性骨折ネットワーク Fragility
Fracture Network (FFN-J) の作製した大腿骨近位部骨折デー
タベースの登録施設になっております。このデータベースは患
者情報を登録し、1年間の追跡を行うことで、病院間や、地域
性の比較により、治療の特色や課題について検討するプロジェ
クトです。ご協力の程、お願いいたします。(文書3参照)

今後もスタッフ一同一丸となって、道東医療圏に二次骨折予
防のための質の高い医療を提供できるようにして参ります。